

工場 **ビル** 対象

デマンドコントローラのご紹介

「省エネでまこん」

最大需要電力を抑制し、
電力コストを削減



📌 スマートなデマンド警報・メール通知 ⚙️ 携帯端末対応

⚙️ **デマンドコントロール** 📊 **見える化** 📄 **省エネフォロー**

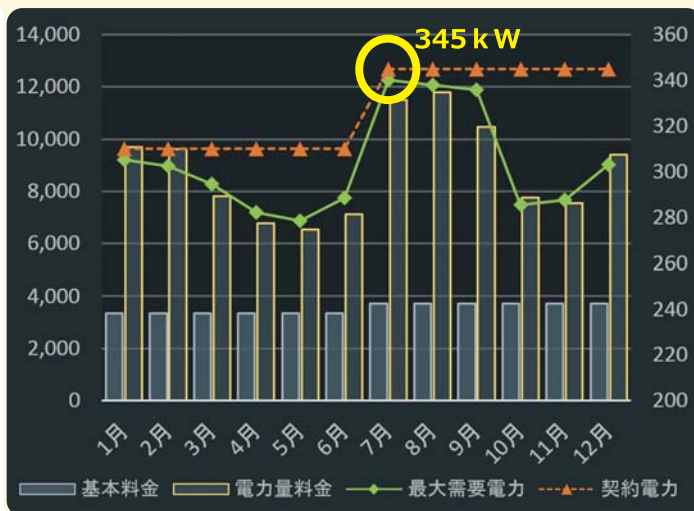
自社の契約電力はいくらかご存知ですか？

電力会社からの「電気請求書」等に記載してありますので、ご確認ください。
50kW～499kWの範囲です（高圧小口）。

契約電力とは

- *1
右図は1年間の最大需要電力、契約電力等の関係を示したもので、
以下、図を参照
- ①7月時点で、過去も含めこの月の最大需要電力が最も大きかった。
これが契約電力（345kW）として決定。
 - ②翌月、最大需要電力は下がったが契約電力は下がらない*2
下がるとしても1年後。
 - ③7月に最大需要電力が大きかったのは主に空調負荷によるもので、
設備の運転管理が適切でなかった。
そのため、ある時間帯に電力消費が集中したことが要因。

*1 最大需要電力とは、30分単位（デマンド時限）における平均電力
*2 前11か月も含めて最も大きい最大需要電力が契約電力となるため



契約電力と電気料金のご存知ですか？

電気料金 = 基本料金 + 電力量料金 です。

*再生可能エネルギー発電促進賦課金等は除く

基本料金 = 契約電力 × 基本料金単価
電気を供給するためのインフラ等のコスト。

電力量料金 = 電力量 × 電力量料金単価
使用した電気に対するエネルギーコスト（燃料費）

- 基本料金単価 = 1,269円/kW
- 電力量料金単価 = 約16円/kWh

上記は東京電力の産業用の例
・産業用（製造業など）と業務用（ビル、病院など）では単価はそれぞれ異なる。
・各電力会社によっても単価は異なる。



ポイント ・ 契約電力を下げると、電気料金は下がる
・ 契約電力を下げるには、短時間に大量の電気を使用しないこと

⚠ 契約電力（基本料金）を下げるには

- 30分単位で、電気の使用量を管理します。
- そのためにはデマンドコントローラを導入します。
人手でもできないことはありませんが、極めて非効率です。

デマンドコントローラ(デマコン)の基本機能

- ①電力計の電力パルスをデマンドコントローラに取り込む
- ②電力パルスをもとに、最大需要電力（デマンド）を予測
- ③デマンド目標を設定し、[予測>目標]の時、警報出力（※）

※警報出力：携帯端末等に警告表示。所定の負荷の抑制にも対応

省エネでまこん はデマコンの基本機能に加えて、以下の特徴があります

- 🕒 10秒予測
- 📱 見える化
- 📄 省エネ提案
- ☁ リモート管理

- ☑簡単に導入できる
- ☑電気に関する専門知識は不要
- ☑エネルギー管理が可能
- ☑PC・スマホ等が見える化の端末として使用可
- ☑見える化が充実



※【省エネでまこん】・ブラウザとサーバ間の通信はTLSを用いて暗号化されます

比較

	一般的な製品	省エネでまこん	
デマンド予測	[デマンド予測値>目標値]での負荷遮断 <small>繰り返しにより、機器に悪影響が及ぶことも</small>	最適タイミングで必要最小限の負荷を遮断	遮断負荷容量設定方式や高速サンプリングにより負荷遮断を行う。リアルタイム表示。
瞬間電力量の記録・表示	なし	30秒ごとに収集(リアルタイム)	異常な電力の監視、問題点の発掘に活用。
見える化	なし(同等機能) ^{※1}	WEB表示対応 ^{※2}	現場機器の近くなどでデマンド予測や電力使用量が把握可。警報・異常メール通知機能も搭載。
導入後のフォロー	なし	IT活用によりリモートで管理	節電や省エネアドバイス、デマンド目標値の見直し。リモート管理で、導入後も継続的に活用。
データ保存期間	1年間程度	最大3年	前年度比較なども簡単操作・短時間で処理。過去のデータが有効に活用。

※1デマンド予測以外の機能
※2インターネットに接続された端末が必要

今すぐ「見える化」を体験>>
<http://www.komonevalley.com/demand>

デマンドシミュレータ (7+1)
デマンド制御時の経済効果シミュレーションツールも同時公開中